

資料②

超過在校等時間個別分析シート 教科名 ○学年担任

笠間中学校

1 校務分掌等 授業時数 16h/週, 部活動:○○, ○学年担任, ○○主任

2 分析

(1) 他の職員との比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
本人	77:45	73:40	100:05	70:03	12:35	30:45	100:10
同学年○○	58:55	60:20	42:30	62:25	19:20	11:20	55:35
他学年○○	28:45	39:10	44:20	35:05	1:30	13:20	37:00

※8月:後半部活なし 9月:休校等

(例) 10月の超過在校等時間

月	火	水	木	金	土	日
				2:40		
4:30	4:30	5:00	4:00	4:00	8:00	4:00
祝日	4:15	5:55	3:30	3:00	4:00	
4:30	4:10	1:10	4:05	2:45	3:30	
4:30	3:00	3:15	3:40	2:00	7:15	

- ・9月が休校となり、その分の学校行事(合唱コンクール)や市新人戦等が11月に延期され、10月の業務量が増大した。
- ・超過在校等時間の約7割が教材研究のための時間である。9月の休校中に実施したリモート授業において、Googleスライドの活用が有効であると感じ、10月以降も継続利用して授業改善に努めている。しかし、その情報リテラシーが不十分であるため作成に時間がかかる。教科の特性上3学年分の教材準備が必要である。

(2) 超過の主な理由

○ 教材研究

- ・新学習指導要領に準拠した授業のためのワークシート作成
- ・教育実習生への対応(5月~6月)
- ・9月以降は前述の通り

○ 学級経営

- ・家庭学習帳のチェック ・学級の座席交換
- ・合唱コンクールにおける生徒の意欲喚起を図る掲示物の作成
- ・端末を利用した生徒へのメッセージ作成
- ・三者面談に向けた準備

3 改善のための具体策

- 学校サポーターの活用(ワークシート等の印刷や掲示物等のラミネート)
- 既存の教材(動画:NHK)の活用
- 他の職員(グッドモデル)の方策を参考に、自分なりのタイムマネジメント向上を図る。